

リンクスの 事業再生現場

レポート 第44回



(株) リンクス

宇都宮市西一の沢町8-22 栃木県林業会館5F
TEL : 028-634-5088
Mail : info@rincs.biz
URL : http://www.rincs.biz/

【ローン完済】

「Aさんのローン、今日で完済なので、担保抹消手続きして下さいね。」入社早々、懐かしい名前を聞きました。Aさんは、破産したB社の社長の友人です。

B社は当時、中国からの輸入品に押され、売上の大半を失い、破産申立を検討していました。そのB社、破産申立3か月前に銀行から5百万円調達したそうです。それ以前から売上が大きくダウンし、赤字も3期連続でした。5百万円は赤字資金にすぐさま消えるのは誰が見ても明らかです。銀行としては「貸さぬ親切」を求められた場面です。

しかしながら、銀行は新たな担保を条件に融資を承諾したのです。その担保を提供したのが、社長の友人であるAさんであり、あろうことか唯一の資産である自宅を担保提供したのです。銀行としては、倒産を回避するために第三者の自宅を担保に取るという愚挙に出てしまったようです。その5百万円で経営再建の途が見えるのであれば、その資金も生きたはずですが、無策で調達しても、いずれその繰り返しとなるのは明らかでしょう。

破産を直前にして、Aさんに迷惑をかけたくないB社の社長から私共に連絡をいただきました。こういった場合、銀行がAさんに担保設定額で融資し、同額をB社の返済に回すことも考えられますが、実は、Aさんは事故者いわゆるブラックリスト先です。銀行からの借入は絶望的であり、最悪は競売も考えられる状況でした。

早速、関係者全員で銀行に相談を持ちかけま

した。銀行もようやく事態の深刻さと、自らの判断の過ちに気付いてくれたようです。しかし、一度取った担保を無償で外すわけにはいきません。3か月前に貸せないと判断していれば、銀行もロスを拡大させていないし、Aさんも自宅を奪われることも無いのであり、当時の判断が残念でなりません。

幾度かの交渉により、担保解除のために返済する金額が決まりました。支店の担当者の頑張りもあって、当初想定していたよりも格安の金額です。私共で調査した不動産評価が効いたようです。

残された問題は、どうやって資金を用意するかです。B社は既に法的手続きに入っており、資金融通することは出来ません。Aさん本人は消費者ローンの事故者であり、借入は不可能でしょう。薄々覚悟はしていましたが、私共で資金を融資するしかなさそうです。(こういったケースを想定して、貸金業の免許取得しています)

さすがに、この案件、私共社内でも悩みました。自宅を守るために取り組んだとしても、万一返済できなくなったら、我々がAさんの自宅を処分せざるを得ないのです。そのリスクの可能性が高い案件です。しかし、ここで支援しなければ、Aさんは自宅を失ってしまいます。悩みどころは満載です。最終的に決め手となったのが、「素敵な奥さんと1歳の可愛い子がそばにいるのだから、自宅は絶対に守るはずだ」との意見でした。これには、一同納得。めでたく3年後の本日、一度の遅れもなく完済したのです。



〈著者プロフィール〉

代表取締役社長 佐藤 正人

昭和37年生まれ、大田原高校、新潟大学卒。

昭和60年足利銀行へ入行後、営業店、審査部門を経て平成16年退社。

在職中の事業再生の経験を活かし、平成18年栃木県で初めての事業再生専門のコンサルティング会社である(株)リンクスを設立し代表者に就任。以来地元中小企業の多くの事業再生を行っている。